

令和5年4月 教育委員会会議録

開催日	令和5年4月26日（水）14時00分～15時50分	
開催場所	半田市役所 庁議室	
出席委員	教育長 鈴川慶光 委員 新美大 委員 堀崎隆資	委員 桂優子 委員 正村日登美
説明のため出席した職員	教育部長 森田知幸 主任指導主事 鈴木康弘 指導主事 西尾睦美 生涯学習課長 青木美希 スポーツ課主幹 長坂壮浩 博物館長 関正樹	学校教育課長 内藤誠 指導主事 高下隆史 給食センター所長 榊原秀夫 スポーツ課長 加藤計志 図書館長 齋藤政樹 南吉記念館長 遠山光嗣
事務局	学校教育課総務担当主査 羽根 広	
協議事項	(1) 県民の日学校ホリデーに係る市立幼稚園での実施について	
報告事項	<p>(1) 寄附・後援願等について</p> <p>(2) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について</p> <p>(3) 令和5年度学校・幼稚園訪問実施要項について</p> <p>(4) 令和4年度学校運営協議会の活動報告(成果と課題)について</p> <p>(5) 令和5年度学校運営協議会委員等の委嘱について</p> <p>(6) 令和5年度半田市教育支援委員会委員の委嘱について</p> <p>(7) 令和5年度半田市幼児教育支援委員会委員の委嘱について</p> <p>(8) 令和5年度半田市子どもサポート会議委員の委嘱について</p> <p>(9) 「半田市学校給食における食物アレルギー対策の手引き」の策定について</p> <p>(10) 令和4年度半田市文化活動全国大会等出場激励金の支給結果について</p> <p>(11) 各種事業について</p> <p>①音楽のあるまち半田 2023年度 音楽イベントリストについて</p> <p>②Piano Cantabile の開催について</p> <p>③直木賞作家 澤田瞳子「わたしと半田市」の開催について</p> <p>④はんだ夏の第九 2023 の開催について</p> <p>⑤亀崎図書館オタッシャ読書教室 & 折り紙 2023 皐月について</p> <p>⑥亀崎図書館おたのしみ会について</p> <p>⑦初夏の旧中埜家住宅一般公開について</p> <p>⑧旧中埜家住宅ワークシート(住宅内容・外観用)の制作について</p> <p>⑨正八ちゃんの端午の節句</p> <p>⑩新美南吉童話賞審査員対談・講演会</p> <p>⑪童話創作講座</p> <p>⑫新美南吉読書会</p>	

各課事務連絡	生涯学習課、新美南吉記念館
--------	---------------

〈 開会 14時00分 〉

1. 前会の会議録の承認	(事務局) 3月定例会の会議録について概要説明 → 承認
2. 教育長報告	<p>(教育長)</p> <p>前回以降の日程について。年度末年度初めでは、辞令交付式、受入式等ありがとうございました。</p> <p>4月1日、半田市少年少女発明クラブの開校式がありました。ツカサ工業様が全面的に協力してくれている。クラブのための建物があり、指導員の方も各企業のOBの方を中心に30人以上おり、活発に活動している。基礎クラスと創造クラスがあり、基礎クラスは4年生、創造クラスは5、6年生を対象とし、40名ほどの定員が毎回抽選になるぐらい人気がある。昨年度は、あいち少年少女創意くふう展2022において、横川小学校5年生児童が特許庁長官奨励賞を、半田小学校6年生児童が愛・地球博メモリアル賞を受賞した。日頃、こうなると便利だろうなというような作品を作ったよう。また、横川小学校がガイドー賞を受賞した。</p> <p>2日はジュニアブラスバンド定期演奏会があった。こちらも毎年開催されている。</p> <p>こういった発明クラブやジュニアブラス、今月末には少年少女合唱団の開校式があったり、鉄道少年団の開校式もある。これらを含めて、半田市では休みの日に様々な活動をする機会が充実していると感じるが、なかなか人が集まらないと聞く。</p> <p>今後、中学校の部活動の新しい形、地域クラブ化に向けて、こういった市内で活動している様々な団体を子どもたちに紹介して、いろいろな場に参加することで、多くの経験をしてもらえるといいなと改めて感じた。</p> <p>6、7日は小中学校の入学式、10日は幼稚園の入園式があった。</p> <p>特に中学校については新しい制服になって初めての一年生だった。私は亀崎中学校へ行き、主任指導主事は半田中学校へ行ったが、他の学校の話なども聞くと、どの学校も約9割がブレザー型の新制服、約1割が詰襟・セーラー服といった割合だったよう。今後どうなっていくのかわからないが、選択肢が増えるのはいいことだと思う。また、ある中学校では、10人弱の女の子がスカートではなくスラックスを履いていたよう。そういった子も受け入れ、そういったことが普通になっていけばいいなと思っている。</p> <p>17日、幸せになるための教育を実現する会議の委員さんとの意見交換会があった。教育委員のみなさまもご参加いただきありがとうございました。今年度から、様々な場面で学校が幸せについて考える機会を持っていければと思っている。校長会や教頭会など学校の4役を中心に、教育委員会からも幸せについて考える意識づけをし、各学校で考えていただき、取り組んでほしいと思う。</p> <p>また、学校だけでなく保護者、地域の人たちにもそういう取り組みをしているんだということで半田市全体が幸せについて発信することで、意識できるようなことを今年度特に心がけていきたいなと思っている。</p> <p>18日、尾張部都市教育長会議。これは尾張部の23市の教育長が集まる会で、年間4回程度開催されるもの。愛知県教育委員会の事業の説明があったりする中で、ラーケーション（令和5年3月16日、愛知県教育委員会公表。ラーニング（learning-学習））と「バケーション（vacation-休暇）」を組み合わせた造語。保</p>

	<p>護者の休暇にあわせて子どもも学校を休める「ラーケーションの日（校外学習活動の日）」を全国で初めて創設。登校しなくても欠席とならず、年3日まで取得が可能。2023年度2学期以降順次、公立小中高校等に導入する方針。）のことが話題になったが、どの市も、おそらく町村もそうだと思うが、現場としては、これまでも家庭の事情や家庭の考えで休みを取っている子がいるという状況でやってきた。それが、こうして公の制度になると、必ず取得しなければいけないわけではないのだが、おそらく取得できない家庭もあり、そういった家庭の子どもたちがどう感じるのだろうかということや、他にも学校のいろいろな面で煩雑になる部分もあったりして、慎重に取り組んでいくべきことだと思っている。県に対してもそういった声が多いからだと思うが、改めて意向調査が届いている。</p> <p>一方で、2学期から豊田市の何校かがモデル的に取り組んだり、この尾張教育長会議でも、知事の発表を受けて保護者から導入の要望の声があがっている市があるということも聞いた。この市では、2学期から導入するよう準備を進めているようだが、半田市では、もう少し様子を見ながらどのタイミングで導入できるかを慎重に考えていきたいが、もっと言うと知多5市5町で足並みを揃えられるとよいと思うので、今後、相談していきたい。</p> <p>20,21日は、東海北陸都市教育長会議に参加した。東海北陸6県の教育長が参加するもので、県や市町による研究発表等があったりするもの。福井県大野市では、教育委員会に、半田市でいう子育て相談課や幼児保育課のような機能の部署が含まれ、0歳から中学生までを教育委員会に取り込み、一本化しているような組織づくりをしている。一方で、スポーツや生涯学習のうち、子どもたちに関わりがない部分は市長部局で担っているよう。こども家庭庁の発足に伴い、これからそういった機能のあり方を考えていく市町も出てくると思うが、今のところ半田市では幼児保育課や子育て相談課とも物理的に隣同士で情報交換を密にできており、不都合がまったくないわけではないが、今後も情報交換をすることを意識しながら取り組みつつ、今後の流れも見していきたい。</p> <p>23日の中日新聞に、青山中学校の「ぼちぼち」（不登校の生徒の登校機会を増やすために、月2回程度、地域の方々や給食を食べるもの。学校だけど学校でない雰囲気の中で、様々な悩みを抱える生徒を温かく支援していただいている。）の取り組みを掲載いただいた。こういった活動を新聞で取り上げていただくことで、他の学校にも広がっていくといいなと感じた。</p> <p>25日、市議会議員懇談会があった。新しい方が6名当選されたが、新しい方々とも良い関係を築いていきたい。</p>
<p>3. 議題 ■協議事項 1) 県民の日学校ホリデーに係る市立幼稚園での実施について</p>	<p>(学校教育課長)</p> <p>先月の定例教育委員会で小中学校の実施日については11月24日とすることで承認いただいたが、今回は市立幼稚園での実施についての話となる。</p> <p>県の発表では、対象を公立学校としており、これには幼稚園も含まれているが、半田市では、幼稚園長会議における、幼稚園には教育だけでなく保育の機能もあるため、休日とすることでお困りになる家庭もある等の意見から、通常通り開園したいと考えている。ただし、当然お休みしたいという家庭については自由にお休みいただければいいものとする。</p>

事務局としてはこのように進めたいと考えているので、ご協議をお願いしたい。

(教育長)

以上のように提案があったが、何かご質問ご意見あるか。

(新美委員)

今の話だと、幼稚園児の保護者が両親ともに働いていることが考えられるため、幼稚園は開園して受け入れることとするということだが、それは小中学校も同じではないか。幼稚園児も小中学生もいるような共働きの保護者がこれを聞いたら、なぜ小中学校は休みで幼稚園は休みにならないのかと疑問に思うのではないか。

愛知県教育委員会が作成したパンフレットには、公立学校（幼稚園・小中学校・高等学校・特別支援学校）と書かれており、これを保護者が見たときにどう思うか。

(学校教育課長)

新美委員のおっしゃるとおりだが、小学生については子どもたちの受け皿として放課後児童クラブがあり、中学生については親御さんが働いていても家で過ごせるだろうと判断している。一方、幼稚園児は休園したときに受け皿が整っておらず、また、家で1人きりにさせることは現実的ではないということでこのように考えている。

(新美委員)

幼稚園のそういった事情は理解できるので、保護者から学校や園に問い合わせがあったときに、きちんと説明できればいいと思う。

私の周りでも話題になっており、例えば、三河の高校だと休みになる日が異なっているということも聞いたりして、保護者の方たちは気にしているということを実感したので、そういった認識を持っていただきたい。

(桂委員)

この学校ホリデーは、子どもたちや保護者にはどのように案内するのか。

パンフレットを見ると、幼稚園も対象になっているのに半田市では休園にならないのかと疑問に思う人もいると思う。

周知の方法は、もう決まっているのか。

(主任指導主事)

まず周知の方法について、小・中学校については、始業式時点で保護者通知をしているので、各家庭に届いていると思う。

ただし、パンフレットについては、始業式後に届いたため、それから学校にデータを配信した。それぞれの学校のHPには掲載するよう依頼したが、保護者向けには、PTA総会で通知したり、tetoru（保護者連絡アプリ）で通知したり、各学校の判断による。

(教育部長)

	<p>幼稚園については、現時点で周知していない。この協議の結果をもって、周知を図る予定としている。周知方法はこれから考えるが、通常であれば教育委員会から各園に保護者宛の通知文を送付し、各園から保護者へ通知される。</p> <p>(桂委員) 承知した。幼稚園の保護者が混乱しなければいいと思う。</p> <p>(正村委員) 幼稚園の場合、小学校や中学校に上の子がいたら、おそらく開園していてもお休みされると思うが、そのときは公欠扱いのようにできるか。今の園での実態を承知していないが、出席するとスタンプがもらえるような園があったとしたら、その欠席が子どもにとって大きな影響を与えると思ったので。緩い範囲で、親の判断で出席や欠席としていただければ、子どもたちも安心して休めるだろうし、愛知県が求めている家族で過ごすということも実践できる。白か黒かではなく、グレーのところを幼稚園に求めたいと思う。</p> <p>(学校教育課長) 幼稚園のカリキュラム上は問題のない話なので、子どもたちのスタンプ集め等のところは配慮していきたい。</p> <p>(教育長) それでは事務局の提案どおりとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(教育委員) 異議なし。</p> <p>(教育長) 承認することとする。委員のみなさまもご承知おきください。</p>
<p>■ 報告事項 1) 寄附・後援願等について</p>	<p>(学校教育課長) ・ 8 団体より寄附。 (内訳：山車創建 160 周年記念誌、(開校 150 周年記念)クリアファイル、サッカーボール・バスケットボール、スピーカー・ワイヤレスマイク、理科室カーテン、巧技台、澤田ふじ子著作書籍、焼き菓子) ・ 2 件の共催事業を許可。 ・ 24 件の後援名義を許可。</p>
<p>2) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について</p>	<p>(指導主事) 令和 5 年 3 月 25 日～4 月 24 日の交通事故・問題行動等について。 交通事故：1 件 4 月 20 日(木) 1 件</p>

	<p>問題行動（被害）等：なし 交通事故以外の事故：1件 3月22日（水） 1件 学校等被害：なし 不審者情報：3件 3月29日（水） 1件 3月31日（金） 1件 4月17日（月） 1件</p>
<p>3) 令和5年度 学校・幼稚園訪問実施要項について</p>	<p>（主任指導主事）</p> <p>「半田市立小中学校・幼稚園訪問予定」については、3月の教育委員会会議で報告した後に、指導主事や学校教育課事務局職員など訪問者を追加したものを。</p> <p>次に、学校訪問の概要について説明する。知多地方教育事務協議会から出ている資料のとおり、半田市教育委員会として、小中学校を訪問して指導していく。趣旨としては、「幼・小・中学校教員研修の手引1・2ページ」の「新しい生徒指導提要」について示されている。「生徒指導提要」とは、生徒指導の実践に際し、学校が共通理解を図り、組織的・体系的な生徒指導の取組を進めることができるよう、生徒指導の基本書として、平成22年にまとめられたものとなる。昨年12月に、近年の生徒指導諸課題の深刻化を鑑み、改訂された。改訂の基本的な考え方として、①「成長を促す」積極的な生徒指導を充実させること、②法律や通知等を理解し、それらの根拠に基づいた対応や指導・支援を行うこと、③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めた学校組織全体および、関係機関等と連携・協働し、ネットワーク型支援チームによる組織的な対応を展開していくこと、が示されている。学校訪問では、その趣旨の具現化を図るよう指導・助言していく。あわせて、実施要項2の着眼点にも注目しながら指導・助言していく。</p> <p>本年度の半田市の教育目標のキーワードが、「地域とともに」であり、例えば（1）①の「特色ある学校づくり」「開かれた学校づくり」などについては、学校が、「地域の特色を生かした」学校づくりを目指しているか、その手だてはどうかなど、指導していただければ幸いである。また、コミュニティ・スクールの充実を目指しているため、（2）⑥の「社会・地域に開かれた教育活動の展開がなされているか」については、これまで以上に注目したいところとなる。（3）学習指導の充実については、学習指導要領に関連したところ。学習指導要領では、「主体的・対話的で、深い学び」がキーワードの1つとなっており、半田市教育委員会としても、「主体的・対話的で、深い学び」は、重点目標の1つとして掲げているので、「主体的・対話的で、深い学び」、つまり、子どもが主体となり、生き生きと学習に取り組んでいるのかにも注目したい。</p> <p>また、ここに書かれていることはお含みいただきながらも、委員の皆様には、これにとらわれることなく、日ごろから大切に考えてみえることを始め、様々な角度から教職員に対して忌憚のないご指導・ご助言いただけると幸いである。よろしく申し上げます。</p> <p>続いて、令和5年度の幼稚園訪問の概要について。委員の皆様には、その目的である、「幼稚園教諭としての実践的指導力と意欲を高め、資質向上を図る」、「幼・小</p>

	<p>の互いの研究授業参観に参加することで、互いの園児・児童の発達段階及び指導の在り方について知る」を踏まえて、ご指導いただけるとありがたい。幼稚園では、特設保育時間を設定しているが、全員の教諭がその時間を参観し、学び合う場に位置付けている。午後の協議会でも、全員で参観した特設保育時間を中心に、研究協議をするが、委員の皆様には、参観いただいた園児の活動の様子を通して、幼稚園教諭の声かけやかかわり方が適切であったかどうかご指導いただけるとありがたい。その他、お気づきのことについても、委員の皆様にご指導・ご助言いただけると幸いである。よろしくお願いいたします。</p> <p>また、昨年度同様、市議会議員の皆さんにも案内をし、参観を呼びかけていく。さらに、今年度は、市内の7つの県立学校、高等学校5校・特別支援学校2校にも案内をする予定。</p>
<p>4) 令和4年度学校運営協議会の活動報告（成果と課題）について</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和4年度は、コロナ禍の制限が緩和され、徐々に活動を再開したり、スタートをきったりすることができた1年だった。なかでも、「新たな取組」「新たなつながり」といった言葉や、同様の活動内容が多く見受けられること、子どもたちが「安心」「安全」を感じ、教師も子どもの学びが深まることに「充実」を実感していることは、大きな成果であると考えられる。これは、地域と学校とが「これまで」を大切にしながら、子どもたちにとってよりよい活動のために工夫を続けているからこそだと言える。</p> <p>子どもたちが地域の方へ「感謝の気持ち」を伝える取組は、子どもにとっても大人にとっても心が育つ機会だと考える。それぞれの学校の特色を生かしながら「地域とともにある学校」が徐々に豊かに発展していることがうかがえる。</p> <p>一方、課題として、2点挙げられる。</p> <p>1点目は、運営の仕方について。ボランティア募集などの実務を学校が担っていることが現状であり、この実務をコーディネーターや運営協議会委員に移行していくことや、地域で子どもが活躍したことの把握や情宣をすることなど、地域と学校をつなぐ役の在り方について課題と感じている学校が複数ある。</p> <p>2点目は、人材確保について。これは、昨年度の課題としても挙がっていた。これまで継続的に中心的に関わってくださっているメンバーの中には、高齢を理由に引退される方がいらっしゃる。この活動を持続可能なものにするために、保護者世代をいかに呼び込むか、多くの学校にとって大きな課題となっている。</p> <p>以上、昨年度の成果と課題を報告とし、今年度も各学校の学校運営協議会がさらに充実するように、各学校の成果や課題を情報交換できる半田市全体の学校運営協議会を開催していく予定である。</p>
<p>5) 令和5年度学校運営協議会委員等の委嘱について</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和5年度の学校運営協議会の委員について、各小中学校から、推薦者名を報告していただいた。今年度は、163名に委嘱する。人数は昨年度と比べ、2名の増で、「半田市立小中学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条の規定に基づき任命するもの。この方々が中心となって、各学校の活動を進めていただくこ</p>

	とになる。
6) 令和5年度半田市教育支援委員会委員の委嘱について 7) 令和5年度半田市幼児教育支援委員会委員の委嘱について	(学校教育課長) (6) 令和5年度半田市教育支援委員会委員の委嘱について、(7) 令和5年度半田市幼児教育支援委員会委員の委嘱については、関連があるため、一括して報告する。 半田市教育支援委員会は、障がいのある児童生徒の保護者に対し、就学上の支援助言を行う委員会であり、16名に委嘱をするものとなる。人事異動等によって昨年度から5名の方が交代している。 次に、半田市幼児教育支援委員会は、障がいのある幼児、またはその疑いのある幼児の保護者に対し、就園上の支援助言を行う委員会であり、9名に委嘱をするものとなる。人事異動等によって、昨年度から4名の方が交代している。
8) 令和5年度半田市子どもサポート会議委員の委嘱について	(学校教育課長) 半田市子どもサポート会議は、いじめ、不登校対策といった事業に取り組む委員会であり、24名に委嘱をするものとなる。人事異動等によって、昨年度から9名の方が交代している。
9) 「半田市学校給食における食物アレルギー対策の手引き」の策定について	(学校給食センター所長) 学校給食は、食物アレルギーを持つ児童生徒を含め、すべての児童生徒に給食を提供することを前提に事業を実施している。 そのため、学校給食における食物アレルギーについては、安全を最優先に、組織的に対応することが不可欠であるため、昨年4月に「半田市食物アレルギー対応委員会」を設置した。そして、今年3月には、学校給食における食物アレルギー対応の基本方針や具体的な手続きについて記載した「半田市学校給食における食物アレルギー対応の手引き」を策定し、各小中学校に配布したので、報告する。 この手引書は、学校給食の現場における事故防止の取組みを促進することを目的としており、学校給食における食物アレルギー対応の基本方針のほかに、学校給食の提供において実施する食物アレルギーの対応、食物アレルギー対応申請の手順、緊急時の対応等を示している。 今後においては、各小中学校を始めとする学校給食に携わる全ての関係者が、この手引書の内容を共通理解のもとに実践することで、食物アレルギーの事故防止の徹底を図りたいと考えている。 また、この手引書につきましては、誰でも閲覧できるよう市のホームページに公開している。
10) 令和4年度半田市文化活動全国大会等出場激励金の支給結果について	(生涯学習課長) 令和4年度分支給状況をとりまとめたので、報告する。 この激励金は、平成26年度から、文化活動の振興を図るため、全国大会に出場する方などへ支給しているもの。令和4年度は、39件の支給をした。令和2年度12

	<p>件、3 年度 24 件に比べて増加しており、コロナ渦であった状況に比べて昨年度は様々な大会が開催され、多くの方が参加されたことが大きいと考える。</p> <p>都合がつく限り市長室にお越しいただき、市長や教育長から激励の言葉をおかけいただいた。報道機関の取材もいただき、新聞に掲載してもらうこともできた。また、3 月には激励金対象となった方々のコンサートを開催し、出場された 27 名及び先生方から、このようなコンサートを開催してくれて嬉しい、励みになる、という言葉を頂いており、非常に好評だった。</p>
<p>11) 各種事業について ①音楽のあるまち半田 2023 年度 音楽イベントリストについて</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>セントラル愛知交響楽団によるコンサートや、生涯学習課主催の音楽イベントについて 1 年間の内容を掲載している。従来開催していたガラコンサート・吹奏楽の響きについては、内容を刷新し、ピアノカウンタービレ・ポップスコンサートとした。新しく開催する「聴いて知って楽しむ大人の音楽事業」は、これまでセントラル愛知交響楽団が小学校や保育園幼稚園で行っていたアウトリーチ事業を大人向けに実施するもの。豊でコンサート・小さなコンサートは乳幼児向けで毎回人気の演奏会となっている。和太鼓・マリンバのライブと、kajii の日用品楽器コンサートは、子どもたちが参加できるワークショップ付のコンサート。子どもたちが音楽に身近にあること・本物の音楽に触れられるきっかけとして多くの子どもたち・親子連れに参加してもらおうと企画した。今年度からイベントの PR にも力を入れていく。紙媒体だけでなく、HP や公式 LINE を始め、インスタグラム等を利用して若い世代にも働きかけていく。また、地道に楽器店やピアノ教室にも足を運んで周知していく。</p>
<p>11) 各種事業について ②Piano Cantabile の開催について</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>Piano Cantabile は、6 月 4 日開催。これは、旧「吹奏楽の響き」に代わるコンサートとなる。</p> <p>半田市教育委員会では、スタインウェイのピアノと、ヤマハのフルコンサート用のピアノの 2 台を所有しており、市民のみなさんにもこれらのピアノの素晴らしい音色を聞いていただき、その魅力を余すところなくお届けしたく、このようなコンサートを開催する。</p> <p>午前と午後に分かれており、午前は 500 円で聞ける素晴らしい内容になっており、金城学院大学の学生による演奏もある。午後は、セントラル愛知交響楽団のオーケストラ付きのコンサートとし、午前と午後と趣向を変えて開催する。</p> <p>ただし、午前午後とも未就学児の入場についてはお断りをしている。理由は、ピアノの繊細な音色を聞き分けていただくためとしている。</p>
<p>11) 各種事業について ③直木賞作家 澤田瞳子「わたしと半田市」の開催</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>直木賞作家 澤田瞳子「わたしと半田市」については、日本福祉大学と生涯学習課との共催事業となる。6 月 17 日に日本福祉大学で講演会を行う。</p> <p>この澤田瞳子さんは、2021 年に『星落ちて、なお』という時代小説で直木賞を受賞</p>

<p>について</p>	<p>された。京都に住んでらっしゃるが、瞳子さんの母が小説家の澤田ふじ子さんであり、半田市に所縁の深い小説家ということでお呼びした。</p> <p>当日は、「わたしと半田市」ということで母から聞いたことや、実際に半田市に来てどう感じたかなどを中心に講演いただく。それに加えて、地元の半田高校及び半田商業高校の学生さんが3名ずつ舞台上がって、瞳子さんと対談をしていただく。内容については、今後、各高校と相談していくが、どのような話が繰り広げられるか楽しみである。</p>
<p>11) 各種事業について ④はんだ夏の第九 2023 の開催について</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>4年ぶりに開催する。今年はベートーヴェン生誕250周年とセントラル愛知交響楽団40周年を記念して開催するもの。半田市民を中心とした合唱団を作り、セントラル愛知交響楽団のオーケストラと一緒に第9を演奏する。合唱団員の応募は終了しており、多数の方から参加応募があった。これから当日のコンサートに向けて合唱練習が始まる。合唱練習は雁宿ホールで活動している「佳の会」がみなさんを指導される。当日、演奏前に第9の聴きどころをセントラル愛知交響楽団の山本雅士氏が面白く楽しくレクチャーしていただける。委員の皆様も年末を待たずして、ぜひ夏の第9にお越しください。</p>
<p>11) 各種事業について ⑤亀崎図書館オタツシャ読書教室 & 折り紙 2023 皐月について</p>	<p>(図書館長)</p> <p>「亀崎図書館オタツシャ音読教室 & 折り紙 2023 皐月について」は、5月26日(金) 午前10時30分から、亀崎公民館会議室にて開催する。</p> <p>今回はシルバー川柳、南吉の「牛をつないだ樁の木」、万葉集などを参加者全員で声に出して読んだ後、季節の折り紙を楽しんでいただく。</p> <p>対象は60歳以上、定員は16名、5月9日から亀崎図書館窓口または電話で、先着順で申し込みを受け付ける。参加費は無料。</p>
<p>11) 各種事業について ⑥亀崎図書館おたのしみ会について</p>	<p>(図書館長)</p> <p>「亀崎図書館おたのしみ会について」は、6月18日(日) 午後2時から、亀崎公民館2階ホールにて「おたのしみ会」を開催する。</p> <p>読み聞かせボランティア「きりんの会」、「おつひサポーター」の皆さんが、パネルシアターや大型紙芝居などを上演する。</p> <p>対象は子どもから大人まで、定員50名、5月25日から亀崎図書館窓口または電話で、先着順で申し込みを受け付ける。入場は無料。</p>
<p>11) 各種事業について ⑦初夏の旧中埜家住宅一般公開について</p>	<p>(博物館長)</p> <p>「初夏の旧中埜家住宅一般公開について」は、5月20日(土)、21日(日)、28日(日)に、“半六さんの別荘で音楽を楽しもう”というコンセプトで、実施する。建物や常設展示の見学と、セントラル愛知交響楽団、金城学院大学リリー・ミューズ、日本福祉大学合奏研究会吹奏楽団、半田高校箏曲部によるミニコンサートも楽しめる内容となっている。</p>

	<p>なお、半田高校は、今回初めて声掛けをさせていただき、ご協力いただけることとなった。旧中埜家住宅を次世代へ継承するという本事業の目的に繋がるよう、お子さんや地域の方が楽しめる公開内容とすることはもちろん、市内の高校生や県内の大学生に運営側で関わってもらい取り組みも進めている。</p> <p>(正村委員)</p> <p>とてもいい事業だが、定員が各回 10 名というのはとても少ないと思う。これは、建物の構造上やむを得ないことか。</p> <p>(博物館長)</p> <p>2 階の和室で演奏聴いていただく形としているが、広さの都合上 10 人程度しか入場できない。家族連れや団体による申し込みで 1, 2 名増える場合は、10 人を超えても受けさせていただく。また、1 階は一般公開しているので、直接演奏は見られないが、音色を聴いていただくことはできる。</p> <p>理想としては、すごくいい庭園があるので、ベランダから表に向かって演奏し、より多くの方に聴いていただくのがいいのだが、楽器の演奏に対して近隣のご理解を得られていないことと、雨天時の対応のこともあり、検討段階にある。</p>
<p>11) 各種事業について ⑧旧中埜家住宅ワークシート（住宅内容・外観用）の制作について</p>	<p>(博物館長)</p> <p>旧中埜家住宅の楽しみ方の一つとして、お子さんたちの気づきのきっかけや見学のヒントになればと思い、住宅内用・外観用のワークシートを制作した。このワークシートは、博物館や旧中埜家住宅で配布するほか、半田市ホームページにてデータ公開も行っていく。</p>
<p>11) 各種事業について ⑨正八ちゃんの端午の節句</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>正八ちゃんというのは南吉の本名で、子どもの頃の南吉になったつもりでこどもの日を楽しもうという行事になる。例年、子どもの日を含む 2 日間の開催だが、生誕 110 年の今年は 5 月 3 日から 6 日までの 4 日間開催する。子どもたちに人気の竹とんぼおじさん、鎧の試着のほか、童話の朗読や、生誕 110 年の市民事業として応募いただいたハンダーFOX による童話劇ショーなども行う。</p>
<p>11) 各種事業について ⑩新美南吉童話賞審査員対談・講演会</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>新美南吉童話賞審査員対談・講演会「わたしの創作の“泉”」は、毎年募集している新美南吉童話賞をもっと市民に知ってもらうために、新美南吉生誕 110 年事業のひとつとして行うもの。</p> <p>内容は、新美南吉童話賞の審査員で、人気も実力も日本を代表する児童文学作家である富安陽子先生と山本悦子先生を講師に、ご自身の創作や好きな南吉作品について対談と講演を織り交ぜながらお話いただくというもの。童話賞に関心を持ってもらい、応募につなげるのが狙いのため、創作の種をどう見つけるのかなど、物語を書きたい</p>

	<p>人へのアドバイスもしていただける。</p> <p>ご承知の通り、山本悦子先生は半田市出身在住の作家。また、お二人の間でコーディネーターを務める愛知淑徳大学教授の酒井晶代先生も当童話賞の審査員である。当童話賞ならではの贅沢な面々と内容でお届けする対談講演会となる。</p> <p>日にちは5月21日(日)の13時30分から、会場は雁宿ホール講堂。要申込みで、すでに当初の定員を超えているが定員を拡大して受け付けている。</p>
<p>11) 各種事業について</p> <p>⑪童話創作講座</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>童話創作講座は例年行っているもので、今年は5月27日(土)、7月8日(土)の2回、講師は東海学園大学教授高橋一元(かずもと)先生。本講座で創作した童話を新美南吉童話賞に応募することもできる。</p>
<p>11) 各種事業について</p> <p>⑫新美南吉読書会</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>新美南吉読書会は、毎月1、2作ずつ南吉作品を読み、自由に意見や感想を話し合う読書会で、平成12年から矢口栄元館長を中心に続けてきた。南吉生誕110年の今年、ナビゲーターを私遠山に交代し、5月から新サイクルが始まる。原則として初期作品から執筆順に約60作品を5年間かけて読んでいく。</p> <p>みんなで読むと自分とは違う読み方や気付かなかった作者の意図が見えたりして、一人で読むよりずっと面白く深く作品を味わえる。お休みの月もあるが、原則毎月第4日曜日の14時からで、年間テキスト500円の購入が必要となる。</p>
<p>事務連絡</p> <p>(生涯学習課)</p>	<p>(生涯学習課長)</p> <p>次回の定例教育委員会が開催される5月25日の12時20分から、市役所1階でロビーコンサートを開催する。前回2月の開催では、非常にたくさんの方がいらっやあって、大好評だった。</p> <p>今回は、アコースティックギターとアコーディオンの組み合わせの演奏会を行うので、委員会後にお越しいただきたい。</p>
<p>事務連絡</p> <p>(南吉記念館)</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>前回ご報告しました企画展「ぼくは井戸である～「牛をつないだ樁の木」考～」が4月15日から始まっているが、展示解説のパンフレットを作成したので配布した。7月2日までの開催になっているので、ぜひ会期中に足を運んでいただきたい。</p>
<p>教育委員からの意見提言等</p> <p>(1)</p>	<p>(堀崎委員)</p> <p>昨日、相談員として学校にお邪魔させてもらったときのことだが、昨年度末に大変落ち着かなくてすごく心配した低学年児童が、昨日見たらすごく落ち着いていた。</p> <p>どうしてだろうと思って様子を見てみると、担任の先生の授業力がとても良くて、しっかり受け止めて上手に褒めてあげたり、他の子の意見を吸い上げたりしていた。やはり教育って大事だなと改めて思ったところだが、4月は授業もままならないと言ってもいいくらい教員</p>

は忙しいため、学校をサポートできるような仕組みがあるといい。例えば、半田小学校では学校運営協議会の協力により、落ち着かない時期の一年生のクラスに地域の人にエプロン先生として教育現場に入ってもらったりしている。

今日も学校運営協議会の話があったが、やはりもっと地域の協力をいただきながら、この忙しい時期にも子どもたちに良い教育が行き届くといいなということを痛感した。

本来であれば、校長会などで授業力を上げる話ができるといいのと思うが、なかなか手が回らないのが現実で、1年の最初のこの大事な時期を良いスタートが切れるといいなと思う。また、もうすぐゴールデンウィークに入るが、少し元気がない子がゴールデンウィーク明けにどうなるのかも心配。

(教育長)

ありがとうございます。

またいろいろな場でそういった声を現場にも届けていかなければいけないと思う。また、学校訪問の折にも、具体的にお話できればと考える。

(新美委員)

今、堀崎委員が言われた中で、具体的に地域が協力できるとしたら、どういった部分が考えられますか。

(堀崎委員)

教員のサポートということで、例えばさきほど例に挙げたエプロン先生のようなことは、雁宿小学校でも取り入れてくれるようになった。

すごく不安な状態にある1年生に寄り添ってくれて、先生の話がなかなか聞き取れない子、聞けない子にちょっと説明してくれる。それだけでも落ち着く。わからなくて結局不安になって学校を飛び出してしまう子もいる中で、そういった教育サポートのような形で協力いただくと助かる。

雁宿小学校と半田小学校は、民生委員に入ってもらっている。

(新美委員)

それでは、民生委員に対して、半田市全体で協力を依頼するということは難しいのでしょうか。

(教育部長)

民生委員の担当部局に、そういったことが可能なかどうかを聞いてみる価値はあると思う。

(新美委員)

民生委員だけではないと思うが、どこか母体があると声もかけやすく、また動きやすく、さらにそこから知り合いの方たちにも声をかけて広がっていくのではないかなと思う。

(堀崎委員)

学校によっては、学校運営協議会のコーディネーターが手配してくれるよう。

(教育長)

学校によっては主任児童委員が活躍しているところもある一方、あまり学校に顔を出さない方もいると聞いているので、一概にその役職だからということとは言えないかもしれないが、声をかけてみることはいいと思う。

(正村委員)

逆に地域の方が学校にどうアプローチしたらいいかわからないということもあると思う。学校のお手伝いをしたいという気持ちがあるが、どうしていいかわからず声をかけてもらうのを待っているような団体があるのも事実だが、その学校が本当に地域の協力を必要としているのかにもよる。

つい先日、ボランティア団体の思いと学校の感染症の考え方などの事情が噛み合わず、摩擦が生まれそうだった話を聞いた。そういったところを上手に収めていかないと、今までの関係が崩れていってしまう。各学校一律でというやり方もあるが、それぞれの学校でアプローチの仕方を考えて募集をするというやり方もある。

協力できる方、していただける方はたくさん地域にいると思うが、どこまでやっているのか、どこまで求められているのかという難しさがある。そのあたりを教育委員会として整理できると、もっと地域の力を生かせると思う。

(教育部長)

委員の皆さんがおっしゃる通りで、学校は助けてほしい状況にあり、地域には学校を助けたいという方がたくさんいるが、そのコーディネーターができてない。これは、教頭先生が担うところであろうが、先ほどの話にもあったように本当に忙しくて手が回らない。

ここを手当てするために、今年度、試験的に学校地域協働支援員という肩書で会計年度任用職員を小学校1校に1名配置した。理想は先生と地域を繋ぐコーディネーター能力に長けた人を配置することだが、会計年度任用職員という立場もあり、すぐに適当な方が見つけられなかったので、一義的に事務ができる方を配置し、教頭先生が担っていた事務の一部を切り分けてその方にやっていただき、その分の負担が軽くなった教頭先生に地域とのコーディネーターをやっていただくことを意図している。

あくまで試験的に配置しているものであるが、そういったことしっかり考えてやっていきたい。

(堀崎委員)

おっしゃる通り地域コーディネーターが機能すると学校はとても助かる。例えば、岩滑小学校はそのいい例だと思う。コーディネーターが学校の用務を受け付け、地域の中で適材適所の人材等を手配している。地域コーディネーターを育てることは、とても大切なことだと思う。

	<p>(教育長)</p> <p>コミュニティスクールも何年か経ってきて徐々に良い形ではできているが、まだまだやれることはたくさんあると感じる。感染症のこともあり、学校運営協議会の情報交換会や連絡会も十分にできなかったが、今後はいろいろな場面で情報交換しながら、より良い形を考えていければと思う。最初に紹介した青山中学校での「ぼちぼち」など、新たな活動も始まっているので、それらを参考にしながら取り組んでいってもらえるよう働きかけていきたい。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (2)</p>	<p>(桂委員)</p> <p>先日、幸せになるための教育を考える会の懇談会に出て、いろいろ話を聞いてまた改めて自分で考えている。先生たちが面白いなと思えば主体的に動いていただけるのだろうが、そのためには何か仕掛けが必要だと思う。その仕掛け、アイデアをこういう場に出し合ってみてはどうか。</p> <p>例えば、校長先生たちに学校の幸せって何だろうなっていうのを語り合ってもらおう。やはり、校長先生がその気になるということが大切だと思う。先生がいろいろな思いを語ってもらったり、考えてもらう機会がたくさんあると、なにか生まれるのではないかな。</p> <p>あるいは、市長と校長先生が1対1で学校の幸せについて話し、校長先生の思いを引き出すような場があってもいい。その後、校長先生がほかの先生と語り合い、広がっていくと、なおいい。</p> <p>(新美委員)</p> <p>非常にいい話だなと思う。私も先日の会議で、皆さんの幸せとはなんですかと聞けるタイミングないかなって思っていた。こうした話をする中で、おそらく自分にとって幸せって何かなって考えると思う。</p> <p>校長先生にあなたの幸せって何ですかって聞くことで、先生自身にとっても考えるきっかけになる。実際にこのお題をもらったことによって、私たちも幸せについて考えるようになっていく。校長先生に語り合おうというのも一つの方法かなと思った。</p> <p>(桂委員)</p> <p>今、私の思い付きに対して、新美委員が考えたことを話してくださって、これも一つのきっかけになっている。こういったきっかけづくりを学校の中でもやれると、先生方にも考えていただけることになり、おもしろいと思う。</p> <p>(教育長)</p> <p>やはり何かきっかけがないと広がっていかないというは確か。幸せを一つのキーワードにしてやってくださいと伝えてはいるが、それだけではなかなか進まないこともあるので、何かそういう仕掛けは必要だと思う。</p> <p>ただ、学校もいろいろな場面で幸せという言葉掲げたり、半田市 PTA 連絡協議会の令和5年度の目標を「保護者と教師が幸せになる PTA – すべては子どもたちのために – 」したり、幸せについて考えていく姿勢を見せている。</p>

	<p>また今日いただいたご意見も参考にさせていただきながら、教育委員会としても各学校に働きかけをしていきたい。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (3)</p>	<p>(新美委員) PTAのあり方について、以前とは大きく変わっている学校が出てきているよう。以前は、例えば小学校6年間の間に役員を1回は担わなければならないという形だったのが、ボランティアで補っている学校が出てきていると聞いた。</p> <p>今、各学校がどういう方向に動いているのか、やり方を変えた学校は何校ぐらいあって、変えたところは学校側なのか保護者側なのか誰が主導で変えたのか、わかる範囲でいいので教えていただきたい。</p> <p>(主任指導主事) 全体は把握できていないが、例えば半田中学校はかなり変わった。会長などの役員は別として、委員は立候補によって集まった人のみ。その中で、その年にどんな行事をやるかを決めて活動する。新美委員が仰ったように、何かやるときにボランティアを募ってやるというふうに変ったと聞いている。昨年あたりからそのような形にして、それに伴ってPTA会費もだいぶ少なくなったと聞いている。</p> <p>また、半田中学校区の小学校がそれを聞いて、形を変えるよう動き出している話も耳にした。他には、乙川東小学校も固い組織ではなく、少し緩いボランティア的な組織になりつつあると聞いている。</p> <p>全体的な流れとしては、そのように形を変える学校が増えていくのではないかと予想しているが、それがいつ頃、具体的にどう変わるかは承知していない。</p> <p>また、他市町では、入会に関する同意書を取るようにした学校があると聞いている。半田市内ではその取組はないと思うが、やはり何年か前のPTAのあり方とは変わってきている。各PTAもそういった情報交換はしていると思うので、今後さらに変わっていくと考えられる。</p> <p>(正村委員) 青山中学校も、今年から変わったと聞いた。</p> <p>(桂委員) 詳しくは承知していないが、委員を選ぶ選挙は廃止し、立候補制になった。 きっかけは、母代の方がどこかの会議に行ったときにそういった事例を聞き、それを参考にしてやってみようと役員で話し合っただけで変えていったと聞いた。</p> <p>(教育長) 全国的にもいろいろ話題になっていることでもある。</p> <p>(新美委員) 中心になってやる人が活発な人で、人を集められるときはいいと思うが、これが何年か</p>

	<p>経って、そういった人が抜けていったときにどうなるのか。そのときは、できる範囲で、できる形でやってくのだと思うが、そうやって縮小していくのか、逆に活性化していくのか、どうなっていくのか気になる。</p> <p>(主任指導主事) おそらく縮小していくことも想定していて、そこは覚悟を決めて変えたと思う。活性化するのか縮小していくのかはその時々かもしれないが、毎年決まったことを必ずやらなければいけないというやり方にはしていないと思う。</p> <p>そういう意味では、今仰ったように、どちらに転ぶかなと気になるころではある。</p> <p>(教育長) 単純に考えると、縮小していくことを心配してしまう。</p> <p>(主任指導主事) 半田中学校の先生は、最初の年は予想以上に立候補があったと聞いた。それが、やり方を変えた年だったからなのか、今後はどうなっていくのかはわからないが。</p> <p>(堀崎委員) 学校の関わりたい保護者は一定数いる。参加、協力する人が同じ人ばかりになってしまふということはあるが、最終的に消えてしまうことはないと思う。</p> <p>(主任指導主事) 意外と、この活動をやるから集まってくださいと呼びかけるほうが集まるのかなとも話していた。決められた委員でやるのではなく、この活動をやるので協力していただける方は集まってくださいとすると、集まってくるのではないかと。</p> <p>(教育長) 個人的には、選挙というか、無理やりにも委員になることで保護者の幅が広がったり、いろいろな人と知り合いになれるというのも一つメリットであったと思う。ボランティアを募ってやる形だと、いつも仲のいい同じ人が集まるようになってしまふかもしれない。実際に、どう広がっていくのか、そこがうまくいけばいいなと思う。</p>
<p>教育委員からの 意見提言等 (4)</p>	<p>(正村委員) 一つ提案と言えるものかわからないが、中学校の部活動の地域移行と半田の「まつり」について意見がある。</p> <p>先日、各地区で春のまつりが開催されたが、私どもの地区では笛や太鼓といった神楽をやる人たちが減っていて、新しい人を募集しており、他の地区でも同じような状況となっているところがあると聞いた。それを聞いたときに、部活動地域移行後の土日の中学生の受け皿として、各地区または半田市全体で「まつり部」を立ち上げると、一定数の人が集まるのではと思った。土日に練習を重ね、1年間の成果を「まつり」当日に披露でき</p>

る。地域と協働することであり、簡単にはできないとは承知しているが、うまくいったら卒業後も若い衆として「まつり」に関わっていくと思う。市外から転入してきた人は、「まつり」に興味はあっても関わりにくいという声も聞くので、関わるきっかけにもなる。また、中学生に限らず、小学校の高学年にも門戸を広げることで、小中学生の繋がりも生まれる。中学生の部活という枠を超えて、「まつり」文化による教育的な要素も期待できる。

(教育部長)

部活動については、学校側が新たな部活動を考えるのではなく、例えばスポーツであればスポーツ課で、文化・芸術活動であれば生涯学習課で考えていかなければいけない。

教育委員会としては、庁内の横の連携も意識しながら考えていくことと、スポーツクラブへ様々な意見を伝えることは必要。

(博物館長)

博物館ではなく、スポーツクラブに関係する者としての立場で話をすると、非常に良い提案を聞かせていただいたと思う。

スポーツクラブとしても、必ずしも中学校でやっている部活動をそのまま土日もやるということではなく、中学生の土日の過ごし方として、そういった視点は大事だなと思う。スポーツであったり文化的なものであったり、そういったものを地域の受け皿として考えていく必要がある。

(教育長)

今、話があったように今まであった中学校の部活の種目だけではなく、いろいろな活動が出てくるといいなと思う。神楽、まつりについては、市全体をまとめている山車まつり保存会があるが、それぞれの地区・山車ごとに伝統と文化があり、なかなかどこかが一つでやるのは難しいと思う。

(正村委員)

詳しくは承知していないが、それぞれの地区・山車で曲が違うよう。

(学校教育課長)

まつりは地区ごとにやり方も違うので、地域と連携してできているところがあるのであれば、それを進めていくといいと思う。

例えば、中学校の部活動から少し話がずれるかもしれないが、雁宿小学校にはお祭りクラブがあって、子どもたちが学校でお囃子を練習して、かりやど祭りで発表している。また、半田中学校にも、今はあるのかわからないが、昔はお祭りクラブがあって、文化祭のときに発表していた。そういった活動が、地域とうまく連携できるといいのだろうが、それは今後の課題として認識しておく。

次回開催等	<p>(事務局)</p> <p>5月定例会教育委員会 日時：5月25日(木)10時00分～ 場所：半田市役所4階 庁議室</p> <p>(教育長)</p> <p>4月定例会教育委員会を終了する。</p>
-------	---

〈 閉会 15時50分 〉